

「高知県橋梁会 平成 25 年度 第 3 回研修会」報告

高知県橋梁会理事 武内 豊

土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催による平成 25 年度 第 3 回研修会が、2013 年 12 月 11 日(水)に、高知市本町にある高知会館の「飛鳥の間」で開催された。

研修会では、企業による新技術や新工法の紹介など 5 テーマ、京都大学の木村教授による「発想の転換による技術開発」等、合わせて 6 テーマの講演を行った。

師走を迎え何かと忙しい時期にもかかわらず 69 名が参加し、有意義な研修会を終えることができた。

■研修会 (13:30~16:55)



右城会長による開会の挨拶

冒頭、右城会長より「今日の講演は大変ホットな話題ばかり。講師の顔ぶれを見ると千葉や富山、さらに京都大学の木村教授はアフリカから関空経由で直接来て下さった。年末で忙しい中ありがたい」と開会の挨拶があった。(13:30~13:35)



長崎富彦氏による講演

1 番目の講演は、(株)横河技術情報の長崎富彦氏から「鋼道路橋の部分係数設計法」と題して、次期道示改訂で予定されている、許容応力度法から部分係数設計法への変更の概要について紹介があった。

従来の許容応力設計法は作用応力度による照査

であるが、部分係数設計法は荷重側と抵抗側にそれぞれ係数を考慮し断面力ベースで照査をする事に大きな違いがあるとの説明があった。(13:35~13:55)



竹内大輔氏による講演

2 番目の講演は、(株)横河住金ブリッジの竹内大輔氏から「津波対策関連製品の紹介」と題して、津波対策工の紹介があった。

津波対策工は主に、防波堤、防潮堤、避難タワー、人工地盤に分類され、それぞれの工法の新しい技術や施工事例の説明があった。(13:55~14:15)



司会を担当した武内理事



細谷多慶氏による講演

3番目の講演は、ランドスソーケン(株)の細谷多慶氏から「高炉スラグを活用したコンクリート「ハレーサルト」」と題して、耐塩害、耐凍害、耐硫酸性を向上したハレーサルトの技術について紹介があった。

ハレーサルトの特長は、普通コンクリートと比較して、耐塩害性は5倍以上、耐凍害性は1200サイクル、耐硫酸性は3倍以上で、強度も50N/mm²以上と大変優れたコンクリート製品が製造可能であり、実際に施工されている道路構造物や、海洋構造物の説明があった。(14:15~14:35)



松嶋秀士氏による講演

4番目の講演は、(株)ビーセーフの松嶋秀士氏から「既設ストーンガードの性能向上を実現したストロンガー工法」と題して、既設ストーンガードを安価・簡易工法の補強により、強度を2倍以上にする事が出来るとの紹介があった。

ストロンガー工法の特長は、既設のストーンガードの各部に補強部材を取り付ける事により、金網やワイヤーロープを撤去無く簡単に補修・補強し、支柱の局部座屈防止や、ねじれを拘束出来るとの説明があった。(14:35~14:55)



竹家宏治氏による講演

5番目の講演は、(株)エスイーの竹家宏治氏から「砂防堰堤補強アンカー工法の概要と施工事例」と題して、グラウンドアンカーを用いて既設堰堤を補強する工法の紹介があった。

砂防堰堤補強アンカー工法は、グラウンドアンカーの緊張力によって、堰堤に水平力及び鉛直力を作用させて安全率の不足分を補完する工法であり、設計方法や施工事例の説明があった。(15:05~15:25)



熱心に聴講する 69名の参加者



フロアーから質問する川口会員



木村亮(まこと)京都大学教授による講演

6 番目の講演は、京都大学大学院の木村教授から「今こそ発想の転換から生まれた新しい技術を展開しよう」と題して、3 工法の技術開発事例の紹介があった。

1. 集成橋脚を用いたフーチングの無い鋼管支柱基礎工法
2. 橋梁と盛土の中間の連続アーチカルバート盛土工法
3. チェーンを引張り材に用いた補強土壁工法

また、自転車で世界中を 5 万キロ走った事や、ここ 20 年ほどの間に 64 回もアフリカに出張し、NPO 法人としてアフリカの人々を幸せにする為に多くの道づくりに参加した事の紹介があった。

(15:25～16:55)



吉田副会長による閉会の挨拶 (16:55～17:00)

■忘年会 (17:30～19:30)

研修会に引き続き、会場を「平安の間」に移して、恒例の忘年会が行われた。参加者は 50 名であった。



右城会長の挨拶



高野光二郎氏秘書による来賓の挨拶



乾杯の音頭をとられた西岡顧問



中締め挨拶をする吉田副会長